

おもシロ！城郭つうしん 第9回

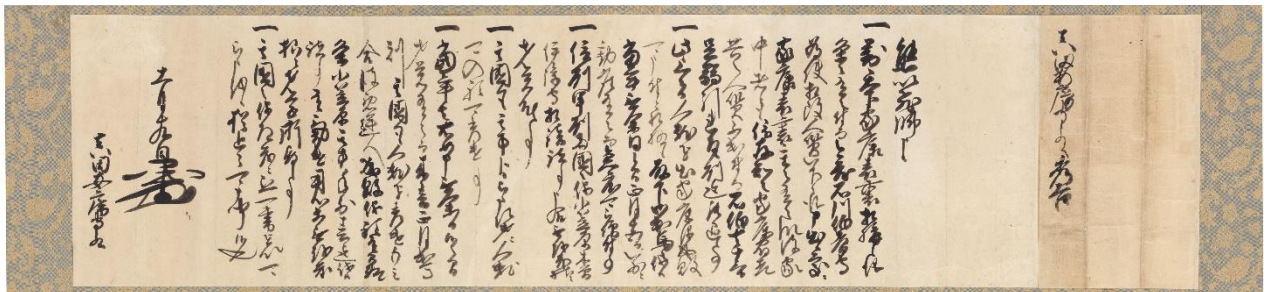
真田氏歴史館（上田市）所蔵文書 ＜石川数正の出奔＞

おもシロ！城郭つうしんは本来ならば松本城の史料を紹介していくページなのですが、せっかくなので今話題の石川数正について、もう少しいろいろな史料から考えていきたいと思えます。石川家は三河（愛知県）の出身で、古くから松平家（のちの徳川）の家来である家柄でした。数正は「家康の懐刀」とも言われ、家康の近くにつかえる家臣だったのです。また、家康の天下統一の拠点だった岡崎城を家康が浜松に移ったのちの城代として治めていました。非常に重要な立場を任されていたのです。

ところが、天正13年（1585）11月13日に突然家康のもとから豊臣秀吉のもとに逃れたのです。当時の日記には「石川伯耆守（数正）が上方（京都・大坂）へ逃げたということで、亥の刻に知らせがあった。すぐに岡崎へ行ってみると、数正は尾張の国へ女房たちと逃げている」と書かれています。この日記を書いたのは家康につかえていた松平家忠です（『家忠日記』）。

有名な家康の家臣大久保彦左衛門が書いた『三河物語』には、「天正13年の暮れに石川伯耆守が裏切りをして、女子を引き連れて岡崎より逃げた」と書かれています。両方とも数正が岡崎から逃げたことは書いてありますが、その理由については語られていません。

石川数正が岡崎から逃げたことを「出奔（逃亡して姿をくらますこと）」という言葉で表現されていますが、その理由が大きな謎になっているのです。



この長い文書は、豊臣秀吉が真田昌幸に送った手紙です。上田市の真田氏歴史館が所蔵している貴重な史料を、許可をいただいて掲載しました。真田昌幸とはかつての大河ドラマ「真田丸」で有名になった真田幸村の父親で、草刈正雄さんが演じて人気になりました。

この手紙は、秀吉が自分に反抗する徳川家康を攻撃するための足場固めとして、各地の国衆へ結束を求めたものです。信濃国については上田の真田昌幸、松本の小笠原貞慶、木曾の木曾義昌の3人でよく話し合うようにという命令が出ています。

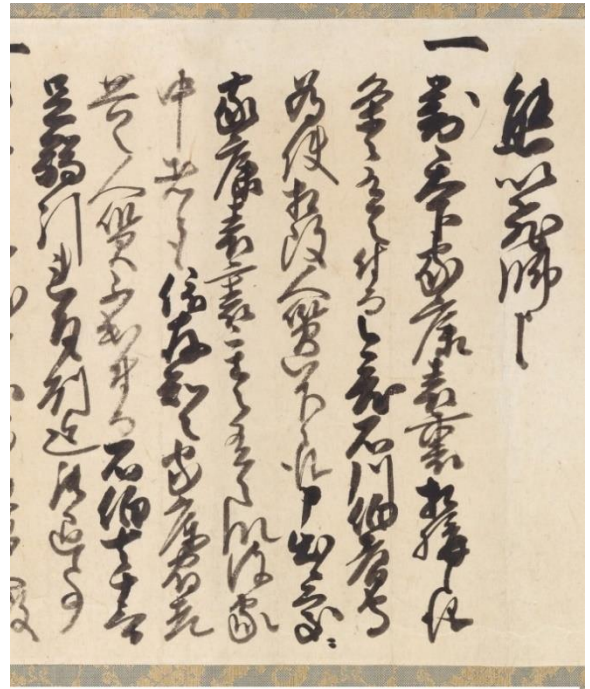
「十一月十九日（花押）

真田安房守との

と末尾に書かれており、花押は豊臣秀吉のもので、真田安房守は昌幸のことです。日付だけで年号が書いてありませんが、このあと紹介するように数正の出奔について書かれていることから、天正13年11月19日で間違いのないと思われます。6つの項目の1番目に注目したいと思います。

態以飛脚申候

一 對天下家康表裏相構候儀
条々有之付而今度石川伯耆守
為使相改人質以下之儀申出候處二
家康表裏重々有之段彼家
中者二も依存知之家康宿老
共之人質不出付而石伯去十三日
足弱引連尾州迄罷退候事



「わざわざ飛脚を使って申し付ける 家康が天下（秀吉）に対して裏切りの気持ちがあることについて、このたび石川伯耆守（数正）を使いとして人質などを改めることを申し出た。しかし家康は裏切る気持ちが強いことを家来たちが承知していたので、家康とそばにつかえる重臣たちが人質を出さなかった。それで数正は女子供を連れて尾張国まで逃れたこと」と書いてあります。つまり、家康が秀吉を裏切らないように、家康とその重臣たちに人質を出すように数正を使いとして命じたところ、人質を出さなかったので数正は岡崎から尾張へ逃れた、というものです。

数正も家康の重臣のひとりですが、なぜ秀吉の使いとなって人質を出すように働きかけたのでしょうか。これについては、秀吉と数正が親しい関係にあったことを伝える史料があります。

「石川伯耆守が羽柴秀吉（豊臣秀吉）のところへ赴いた。家康より初花の小つぼ（茶入れ）を秀吉のところへ届けた」と『家忠日記』に書かれています。これは天正11年（1583）に秀吉が織田信長の家臣だった柴田勝家との戦いに勝利をした（賤ヶ岳の戦い）ことを祝うために、家康が秀吉に贈り物をしたということです。その使いを数正が行いました。このころから数正と秀吉は親しくなり、秀吉も数正に手紙を送ったといわれています。

天正12年（1584）の家康と秀吉の戦い（小牧・長久手の戦い）では「数正は秀吉へ内通した」といううわさがたてられます（『武徳大成記』「石川数正出奔の事」）。

このようにして、数正は徳川の中で次第に孤立してしまったとするのが数正出奔の理由のひとつとしてあげられます。しかしこれもどこまで本当なのかわかりません。ただ秀吉が書いているように、秀吉の使いとして人質を出させるための動きをしていたのは本当かもしれません。

この点について『武徳大成記』には「家康が家臣に対し秀吉に人質をつかわすべきかと試しに聞いたところ、そのようにすべきではないという答えがあったため、家康は人質を出すことをやめた。」と書かれています。ここには数正のことは特に書かれていません。

数正の出奔について、史料からひとつの説を紹介しました。ほかにも説はありますので、それについての史料を探っていきたいと思います。